

解放地域の「スマートビレッジ」完成

解放地域のゼンギラン県に完成したアガリ村「スマートビレッジ」の現地報告を写真とともに紹介いたします。この「スマートビレッジ」は、ハカリ川の河畔に新しく作られた村で、解放から半年後の昨年 5 月に着工され、約 1 年間の工期を経て先月竣工しました。

ビレッジの担当者によると、「スマート」の本旨は、単にDXの技術的メリットを追求するものではなく、持続可能性や環境調和性を重視した街づくり、住民自治が発揮されるコミュニティ形成、これらを通じた生活の質的向上を目指したということです。

ビレッジ内には、200 戸の戸建て住宅(平屋・2 階建て)のほか、公共エリア(噴水広場)に ASAN センター(電子行政手続)、スーパー、診療所・薬局、公民館・会議場が設けられました。公園、学校、フィットネスジム(民間投資)が整備され、道路は歩行者と自転車を優先した設計です。電動ゴミ収集車による分別回収・リサイクルが行われ、各住宅の屋根にソーラーパネルを設置して温水を供給、ソーラー街路灯などグリーン技術も採用しています(なお、施設内電力は近隣の小水力発電所から供給)。今後、遠隔医療・教育の実験的導入も計画中のことです。

第一陣として 40 世帯(約 200 人)がまもなく入居します。入居者の職としては、農業(周辺農地での耕作等)やビレッジの公共サービス業務が中心となる由。入居は相当人気がある模様で、ゼンギラン県出身者以外や若いファミリーが意外と多いそうです。

担当者の語り口も明るく誇らしげで、復興・発展に向けた人々の夢と希望に溢れた「スマートビレッジ」との印象を受けました。





(以上)